

## 街を支えるスーパーマン

沖縄県立開邦高等学校 一年 玉城 蒼

私はとあるスーパーマンを知っている。彼は働き者である。彼は、人々のために様々な働きをしている。ときに彼は土工となって、道路や横断歩道をつくりだす。道が古くなれば、人々のために修繕を行う。また、ときに彼は警察官となって、街の治安を守るために働く。事件があれば捜査をして、私達が安心できるような暮らしを守ってくれる。さらにときに彼はごみの収集作業員となって、きれいなまちづくりを支えている。街にゴミがあふれていないのは、彼らの働きあつてのことだ。加えて、ときに彼は教師となって、子供達に勉強を教える。子供の成長のために、彼は一人一人に向き合っている。そして、ときに彼は教科書などにもなって子供達の学びの理解を支えている。それだけではない。ときに彼は図書館となって、総合的な情報や知識の集まる場を支える。人々の知の探究のサポートをして、老若男女の集まる施設を創り出している。ほかにも彼は、様々な形に変身して、私達の暮らしを支えるために日々働いている。しかし、彼がそんなに人々のために働いていても、中には、彼が縁の下の力持ちであるがゆえに、彼の働きに気づいていない人もいる。それどころか、彼にお給料を払うことに不満を持つ人もいる。

もしも、こんな話があつたら皆さんはどう思うだろうか。多くの人は、スーパーマンは人々のために必死に働いているのに、なんて不憫なのかと気の毒に思うだろう。そして、人々も彼の働きにもっと目を向けるべきだ、と感じるだろう。実は、スーパーマンの正体は税金である。道路の整備修繕も、街の治安を守る警察官も、きれいな街を保つごみ収集作業員も、子供の成長を支える教師も、様々な貴重な情報が集中している図書館の運営も、すべて税金によって賄われている。今挙げたいずれも私達の暮らしには必要不可欠である。しかし、それが存在するのが「当たり前」となっているがために、私達が税金のありがたみを感じる機会はそう多くない。レジで商品のお会計のときに、小銭が足りなくて、税金の煩わしさを感じる機会は多いというのに。だから、私達は税金のさまざまな使途に目を向け、その重要性を認識して生活しなければならない。「当たり前」すぎて税金の重要性を意識しないというのは、日々街のために働くスーパーマン相手になんとも失礼な話である。

だから、私は今後消費税などの税金を支払うときは、その裏にいるスーパーマンの存在を意識して、働きに感謝すると共に、清々しい気持ちで払うようにしたい。

ありがとう、街を支えるスーパーマン。